

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（8月5日現在）について

発信日：2020年8月7日

1 内容

平年値(2010～2019年までの過去10年平均)と比べ、8月5日現在の水稲の生育状況は以下の表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(8月5日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	同等	同等	濃い
	6月中旬**	同等	やや少ない	同等
キヌヒカリ	6月上旬	やや長い	同等	やや濃い
	6月中旬	同等	少ない	やや濃い
さとじまん	6月上旬	同等	やや少ない	濃い
	6月中旬	やや長い	やや少ない	同等

*2014～2019年までの過去6年平均との対比 **2015～2019年までの過去5年平均との対比

2 留意事項

(1) 気象

気象庁が8月6日に発表した1か月予報では、気温は「高い」、降水量は「平年並か少ない」、日照時間は「平年並か多い」となっています。

(2) 出穂期

8月5日現在の生育状況と今後の気象予報から判断すると、出穂期は平年並と考えられます。

(3) 水管理

出穂後10日までの期間は、水を切らさないように注意します。
出穂後10日以降の間断かん水によって、根の活力維持を図り、品質低下を防ぎます。
出穂後高温が続く場合、特に夜温が高いと、乳白粒などの未熟粒の発生が多くなるので、かけ流し等を行い、水温をできるだけ下げて水稲への負担をやわらげましょう。

(4) 追肥

追肥は、玄米の充実促進と品質向上のために必要です。
梅雨明け以降は高温傾向であり、追肥を十分に施用していない場合は、粒の充実不足が懸念されます。出穂前に葉色が極端に落ちている場合は、追肥を施用してください。

(5) 病虫害防除

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）【写真1】

ピンク色の卵塊【写真2】を水田内、畦畔・水路周辺で確認したらすべて潰します。水田内への侵入・隣接水田への被害拡大を防ぐために、水口・水尻に6～9mm目合いの網を設置して捕殺します【写真3】。



スクミリンゴガイ【写真1】

スクミリンゴガイの卵塊【写真2】

網の設置の様子【写真3】

○斑点米カメムシ類【写真4】

斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、これからの除草は行わないようにします。



斑点米カメムシ類の一種
ホソハリカメムシ【写真4】

○紋枯病【写真5】

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。「はるみ」や「キヌヒカリ」は紋枯病にやや弱いため、発生に注意しましょう。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行います。



紋枯病【写真5】



籾の褐変症状
【写真6】

○籾の褐変【写真6】

出穂期前後の強風、高温多湿の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が籾に発生しやすくなります。強風が予想される場合は、深水管理で影響を受けにくくします。

○稲こうじ病【写真7】

前年、稲こうじ病が発生したほ場では、本年も発生する可能性があるので注意しましょう。収穫後、調製段階において玄米の汚れの原因となるので、稲こうじ病の発生が見られたら、穂ごと除去し、ほ場外で処分します。



稲こうじ病【写真7】



イネ縞葉枯病
【写真8】

○イネ縞葉枯病【写真8】

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルスによって発病します。イネ縞葉枯病が発生した場合、株ごと除去し、ほ場外で処分します。

※病害虫の発生状況等については、病害虫防除部の情報等に注意しましょう。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。水田等の見回りは、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨や強風が収まり、安全な状況になってから行います。

ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・台風前には水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報に注意します。

(7) 農作業中の熱中症に注意しましょう！

日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょ。汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装に心がけましょ。

高温多湿の環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高まりやすいです。屋外で人と十分な距離を確保できる場合は、マスクを外しましょ。マスクを着用する場合は、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけ、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外して休憩しましょ。

【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における出穂期等の過去10年平均値

作期	品種名	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
5月27日植	キヌヒカリ	7月22日～8月16日頃	8月6日*	9月13日*
	さとじまん	7月29日～8月23日頃	8月13日*	9月25日*
6月7日植	はるみ	7月26日～8月20日頃	8月10日	9月19日
	キヌヒカリ	7月25日～8月19日頃	8月9日	9月17日
	さとじまん	8月1日～8月26日頃	8月16日	9月27日
6月17日植	はるみ	8月1日～8月26日頃	8月16日**	9月27日**
	キヌヒカリ	7月31日～8月25日頃	8月15日	9月26日
	さとじまん	8月5日～8月30日頃	8月20日	10月4日

- ・ 出穂期約15日前～出穂期10日後までの約1か月間は、水稻が最も水分を必要とする時期であるため、水田の水を十分に保つようにする。
- ・ * ; 5月下旬植については、2002～2006年（5年平均）のデータに基づく。
- ・ ** ; 6月中旬植の「はるみ」については、2010～2012、2015～2019年（8年平均）のデータに基づく。

問合せ先
 農業技術センター普及指導部作物加工課
 平塚市上吉沢1617
 TEL : 0463-58-0333 内線381～384
 FAX : 0463-58-4254